

# 図書館だより



No. 7

平成 24 年 11 月 29 日発行

紅葉も落ち葉となり、目にする景色からも肌で感じる気温からもすっかり“冬”を感じるようになりました。温かい食べ物や飲み物がいつも以上においしく感じられる季節ですね。最近はいわゆるマグボトルがたくさん売っていますが、みなさんの中にもマグボトルを愛用している人は多いのでしょうか。いつでも温かい飲み物が飲めるのは、嬉しいことですね。この時期には、しょうがやシナモンなど体を温める効果を持つスパイスを加えた飲み物で冷え対策するのもおすすめです。

さて、12月にはイタリア芸術研修が行われます。参加する人たちは着々と研修の準備を進めているでしょうか。建築・絵画・彫刻など、本物の芸術に触れられる絶好の機会ですので、下調べをばっちり行って、じっくりと鑑賞してください。図書館でも、特集コーナーにて「イタリア入門」と題し、イタリアを旅するのに役立つ本を展示していますので、チェックしてみてください。今回参加はしないけど、イタリアに興味がある人もぜひ本を手にとってください。



## ホカホカ飲み物で幸せ気分\*

### 596-ス 『カラダほっこりホットドリンクレシピ』 スタジオタッククリエイティブ

お馴染みのホットドリンクはもちろんのこと、体をあたためる効果のある根菜を使った飲み物やお腹も満たせる熱々スープまで幅広い種類のレシピが紹介されています。この1冊があれば、きっと今年は寒さ知らずの冬を過ごせることでしょう。使う食材の効果がそれぞれに書いてあるので、それを読みながら自分で新たなレシピを考えてみるのもいいかもしれませんね。

## イタリアの楽しみ方\*

### 293-コ 『イタリアの散歩道』 昭文社

イタリアを旅するなら、本場の芸術も美しい街並みもおいしい食べ物もぜひ楽しみたいですね！この本では、フィレンツェやローマなどの有名都市の他にシエナ・ヴェローナ・アマルフィなどの小さな街も紹介しています。「ここは押さえておきたい！」という名所から、「こんな見どころもあるよ！」と一歩踏み込んだイタリアの見どころスポットまで1冊で知ることができます。地域ごとにかわいい雑貨のお店や名産品もたくさん紹介されているので、おみやげは何にしようかな、なんて考えながら読むのも楽しいですね。



蔵書点検のため、図書館を閉館します



12月7日(金)～12月20日(木)

以上の期間は蔵書点検のため、図書館は閉館します。

蔵書点検は、図書館で所蔵している本が紛失していないか、破損している本がないかを1冊ずつ確認していく大切な作業です。蔵書点検中に受け付けているのは、本の返却とコピー機の使用のみです。それ以外の用件で図書館を利用することはできません。それは、書架から本があちこちに移動してしまうと、正確な点検が出来ないからです。

いつも図書館を利用してくれているみなさんには、しばらくの間、不便をかけてしまうこととなりますが、蔵書点検にご協力をお願いします。また、記念館自体は通常通り開館しています。生徒ホールで学習に取り組んだり、ピアノ室を利用したりすることはできますので、有効に活用してください。



本の返却日、過ぎていませんか



みなさんにお願いがもうひとつあります！！

借りている本の返却日が過ぎている人は、蔵書点検が始まる前に必ず返却をお願いします。特に、督促状を何度も受け取っている人は、督促状を受け取っていることをなおざりにせず、至急返却をお願いします。図書館の本は個人のものではありません。ひとりで独占していると、他の人がいつまでたっても読むことができません。返却日を守って、お互いが気持ちよく本を読みましょう。



詩集が完成しました



ご存知の人も多いかと思いますが、図書館ではみなさんから自作の詩を募集しています。集まった詩は、貸出の際に本に挟む返却日を記したしおりに載せています。でも、それだけに使うのはもったいないくらいたくさんの詩が集まったので、図書委員と協力し、詩集を作ることになりました。そして、完成したのが『ポエマー大集合』という詩集です。この詩集は各クラスに3部づつ置かせてもらっていますが、希望者には図書館で配布しています。「1冊ほしいな」という人は図書館にどうぞ。

またこれからも第2号、3号と詩集を作っていけたらと思っていますので、みなさんこれからも自作の詩をたくさん書いてください。

## 1冊の本から繋げよう

今月の1冊は…

11月に公開された映画『のぼうの城』の舞台となった忍城が、どこにあるかをみなさん知っていますか？実はこの忍城は埼玉県行田市に存在するのです。思った以上に身近に存在していたと知り、興味を持った人もいないのではないでしょうか。田舎の小さな城の歴史に残る戦いを描いた「のぼうの城」から繋げて本を紹介していきます。

### 913.6-7『のぼうの城』 和田 竜 || 著 小学館

時は戦国、豊臣秀吉は天下統一を間近にし、最後の敵、北条氏討伐に乗り出した。北条氏の支城のひとつである忍城もまた存続の危機を迎える。そんな忍城には、“でくのぼう”からとった“のぼう様”と家臣はおろか百姓からも呼ばれるひとりの風変わりな男がいた。その男の名は成田長親、城代の息子である。武術も剣術もからきし駄目、百姓からもよけいな仕事を増やすと敬遠がられる不器用さ、だけど、そんな長親をみんなは“のぼう”と呼び、慕っていた。

その“のぼう”がまさかの土壇場で忍城と豊臣軍の戦いの火蓋を切ったのだから、さあ大変！しかし、これが忍城の猛将たちの心に火をつけ、百姓たちもまた「のぼう様が戦するってえならよう、我ら百姓が助けてやんなきゃどうしようもあんめえよ。」と大笑いして戦いに加勢する。二万の敵に対し、忍城の兵は5百。そこに百姓が加わりはしたが、誰の目から見ても明らかな劣勢だった。のぼう率いる劣勢の忍城は、いったいどんな戦いをして、その名を歴史に刻むのだろうか。のぼうに策はあるのか、はたまた本当に“でくのぼう”なのか。のぼうの活躍もちろん、のぼうを囲む猛将たち、そして、強くてカッコいい甲斐姫と、各々の活躍を楽しんでください。

『のぼうの城』キーワード1

“甲斐姫” ~男勝りの強い女性~

### 913.6-7『幕末銃姫伝』 藤本 ひとみ || 著 中央公論新社

お裁縫もおしゃべりも肌に合わない。腕力が強いのが自慢。求められる女性像には近づけず、世の中が、ため息が出るほど退屈。そんな八重の道を開いてくれたのは、兄・覚馬だった。「おまえ、砲をやれ」の一言で、自分の生きる道を見つけた八重は、銃を片手に自らも幕末の世の中で戦うことを心に決める。

強くなやかに生きる八重はカッコいいだけでなく、女性としての愛らしさも備えています。そんな八重の恋のエピソードも素敵です。今を生きる女性にとっても八重は憧れの女性像として映ります。幕政が揺らぎ始め、幕府と朝廷の間で翻弄される会津藩に身をおく八重はこの後、維新を迎えた時代の中でどう生きていくのでしょうか。それはこの本の続き『維新銃姫伝』で語られています。

『のぼうの城』キーワード2

“埼玉” ~この地を舞台にした小説~

### 913.6-イ『いま、会いにゆきます』 市川 拓司 || 著 小学館

日常生活に支障をきたす持病を抱えながらも巧は、ひとり息子の佑司とふたり力を合わせ、懸命に暮らしていた。佑司の母であり、巧の妻である滯は、「またこの雨の季節になったら、二人がどんなふうに住んでいるのか、きっと確かめに戻ってくるから。」と、言い残し、この世を去っていた。

そして、また雨の季節がやってきた時、本当に奇跡は起きた。雨の降る日、ふたりは森で滯に出会ったのだ。記憶を無くした滯に、滯がこの世を去っていることを隠しながら、再び3人は家族として暮らし始める。たくさんの幸福が巧と佑司に降り注ぎ、失っていた時間の分まで、愛を深め合う。しかし、雨の季節はやがて終わる。再び、彼らに悲しい別れが訪れるのだった。

愛する人といられる喜び、失う悲しみ、愛される幸せ、たくさんの想いに溢れた本です。最後に明かされるもうひとつの秘密がこの物語をより深みを出しています。じっくり味わってみてください。

そして、

和田 竜さんの作品を「もっと読んでみたい!!」と思った人には

### 913.6-7『小太郎の左腕』 和田 竜 || 著 小学館

戦国の世では、領地を広げるための戦いが繰り返されていた。西の国でも、戸沢家と児玉家が互いの領地を広げようと、戸沢家の林半右衛門、児玉家の花房喜兵衛と、両家ともに勇士が活躍を見せ、攻防を繰り返していた。

小太郎はそんな戦いの続く戸沢家の領地で祖父と猟をして暮らす少年だった。いつもニコニコと笑っており、誰の悪意にも気づかない小太郎をみな馬鹿にしていたが、この小太郎には祖父によって封じられた力が備わっていた。小太郎の左腕から打たれる鉄砲の弾は神業のように狙ったものを射止めた。封じられていた力が目覚めてしまった時、両家の戦い、そして、多くの者の人生が大きく揺れ動いた。

小太郎の幸せを祈り、左腕を封じた祖父の思い、人並みになりたいと願い、鉄砲を握る小太郎の思い、窮地に追い込まれた兵を救うため、小太郎の左腕を求めた半右衛門の思い、それぞれ決死の思いが交差する。左腕は幸運を掴むのか、それとも不幸を招くのか。